

交換留学プログラム 帰国アンケート

作成者情報

・ 氏名	H. Y.		
・ 学部・学科	大学院理工学研究科 機械工学専攻		
・ 性別	男性		
・ 学年（参加開始時）	修士2年生		
・ 後輩からの質問メール可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 否	
・ イニシャルでの記載を希望する	<input checked="" type="checkbox"/> 希望する	<input type="checkbox"/> 希望しない	

プログラム基本情報

・ 参加プログラム種別	交換留学（研究室配属型）	・ 国名・地域名	オーストリア
・ プログラム開始日	2019年7月24日	・ プログラム終了日	2020年1月20日
・ このプログラムに参加した理由、きっかけ			

修士論文執筆のため

留学先情報

・ 国名・大学・機関・企業名	オーストリア	グラーツ工科大学
・ 主な履修科目もしくは研究内容	円管内の乱流熱輸送について（伝熱工学・流体力学）	

滞在先情報

・ 滞在先の種類	大学の寮	・ 宿泊先手配方法	自分で探す
・ 空港⇄留学先機関の交通手段	バス、電車		
・ 通学／通勤方法	自転車、路面電車		
・ 滞在先の様子	ヨーロッパ中心の学生、社会人など幅広いバックグラウンドを持った人々がいた。パーティー好きな国柄出身の人々は入寮できない寮が多く分けられており、とても静かで快適な寮だった。		

留学についての感想

ヨーロッパの小国であるオーストリア、第二の首都であるグラーツはアジア人がとても少ない学生街だった。工学系の学科をもつ大学は2つあり、音楽大学を合わせると3つの大学がある街である。大きくもなく小さくもなく、学生にとっては程よい大きさの自然が魅力的な街だと感じた。グラーツ工科大学には日本人の学部生・大学院生はおらず、phDとボスドクの方が数人いらっしゃる。大学での研究は半分以上が企業にサポートを受けている研究で自動車関連企業との距離が近く、定期的に進捗ミーティングなどで企業に出向き、プレゼンを行う機会があった。研究室は個室が用意され、先生との距離も近く手厚い指導を受けることができた。ドイツ語が公用語であるので不自由に感じることもあったが、学内はヨーロッパをはじめ世界各国から集まっているので同僚との会話は全て英語であった。

参加を検討している方へのアドバイス

前述したようにグラーツに所在する企業との距離が近いので産業に求められているニーズを知ることができる。そのため研究に対するモチベーションを高く保ちつつ研究を行うことができる。私は芝浦工業大学（以下、SIT）の修士論文を執筆するために留学を行なったが、授業履修・ビザの関係で6ヶ月の滞在しかできなかった。6ヶ月の滞在中で修士論文を完成させることに不安があるかもしれないが、グラーツ工科大学で募集をしている多くの研究が6ヶ月間なのでモチベーションがあれば十分仕上げられると思う。だが、研究内容自体が自分の研究内容と違うことがほとんどであると思うので準備期間として「グローバルインターンシップ」などの授業を履修して事前に数週間滞在することをお勧めする。なお、論文の基本的な書き方などは教わらないので論文を執筆したことがある修士の学生にお勧めする。

写真3枚(留学/研修先、滞在先、その他参加プログラムの様子がわかるもの)

写真を3枚を貼り付け、それぞれの写真に説明分を加えて下さい。写真はそのまま掲載しますので、掲載してもよい写真を貼り付けてください。

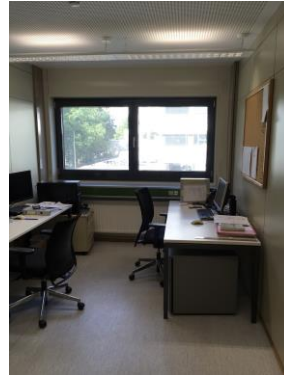
写真①



説明文

大学のメインキャンパス

写真②



説明文

phDの学生と同部屋の研究部屋。

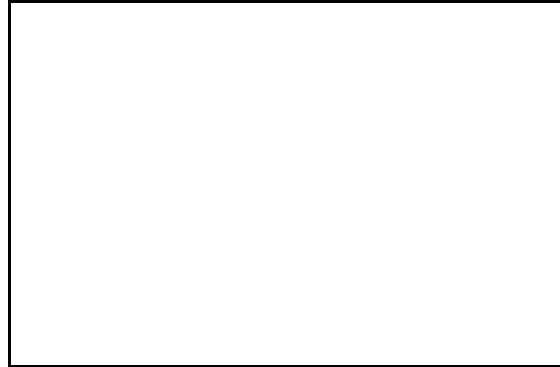
写真③



説明文

TUGrazの学生フォーミュラチーム

写真④



説明文

必要な事前準備 (生活面・留学面)

- ・ VISA申請時に必要な書類
- ・ 入居時に必要だった書類
- ・ その他必要な事前準備

残高証明書 証明写真 その他 ()

健康診断証明書 その他 ()

留学中の費用（概算）

<支出>

内訳	金額（日本円）	備考
往復航空券代+ビザ申請料	¥130,000	
保険料	¥81,000	
授業料/学期	¥0	
通学・通勤費用/月	¥0	
住居費/月	¥40,000	
食費/月	¥30,000	
交際費/月	¥30,000	
その他費用	¥10,000	

<奨学金情報>

奨学金名	金額
芝浦工業大学 海外留学奨学金	80,000円/月

※画像含むコンテンツの無断転載を禁じます。